

取組全体の目的・概要：岩手県沿岸地域では震災を風化させず教訓を伝えていくためのコンテンツが作られつつあることから、これらを活用し、震災の教訓・支援への感謝の伝え方を検討しつつ、持続的な交流人口拡大・収益増を実現するビジネスモデルの確立を目指す。

取組のモデル性：国際会議の機会を活用して、岩手県沿岸地域における防災・復興コンテンツの価値を訴求、ファムトリップ等を通じたコンテンツの磨き上げやプログラムを開発。

主な実施取組の内容

取組① 「国際防災・危機管理研究 岩手会議」エクスカーション

国際会議の機会を活用し、防災・危機管理に関する専門家等（10か国・地域から24名）を岩手県沿岸地域にお招きし、震災の教訓を国内外に発信。

【コース】

・歴史（明治・昭和・平成）を学ぶコース：宮古（田老）、釜石、大船渡

・震災の教訓を学ぶコース：釜石（根浜・鶴住居）

・未来を学ぶコース：陸前高田（復興最前線ツアー）

取組② コンテンツの磨き上げ（ファムトリップ）

地元の岩手大学と連携し、助言等をいただきながら行程を検討。プログラムの造成・販売に向け、ファムトリップを3回実施し、コンテンツの磨き上げを図った。

・旅行会社（中国）＆メディア（ブルガリア・日本）

・国内大学留学生（中国・台湾・タイ）

・台湾人研究者2名

【コース】

陸前高田（復興最前線ツアー）→釜石（根浜・鶴住居）→宮古（田老）ほか

取組③ プログラムの造成・販売

エクスカーション及びファムトリップの結果を踏まえ、実際にプログラムの造成・販売を実施。

・WEBサイトで販売

・外国人向けWEBメディアで防災・復興コンテンツの紹介記事を掲載

・ベトナム向けには自社の海外ネットワークを活用し、販売・送客を実施

【コース】

福島空港→仙台→松島→陸前高田（泊）

陸前高田→釜石（根浜・鶴住居）→大槌（泊）

大槌→山田→田野畑（泊）

田野畑→平泉（中尊寺）→郡山（泊）

郡山→福島空港

成果目標

◆旅行商品 一般向け

◆送客人数 20人

◆宿泊者数 60人泊

実績

○一般向け

○ 3人

○12人泊

併せて専門家向けプランを整備

○国籍別販売実績：ベトナム12人泊

得られた成果

○専門家向けとして好評であり、今後は国際会議等の機会に本事業で造成した専門家向けプランが活用可能。

○ファムトリップ等を通じ、防災・復興コンテンツだけでなく、他の一般観光を含める等、より受容度の高い一般向けのプログラムを開発することが出来た。

今後に向けた課題・活動の見通し

○防災・復興を専門とする団体や教育旅行をターゲットに、他地域との違い（差別化ポイント）を明確にしたプロモーションの実施による認知度向上が必要。

○専門家向けにはニーズを把握し、引き続きコンテンツの磨き上げが必要。

○一般向けには相手国・地域の特性に合わせ、「防災」「復興」だけではなく通常のコンテンツと組み合わせる等、更なる工夫が必要。

○震災伝承のネットワーク化の動き等を見据え、事業成果の承継や連携についても検討。